

平成31年度政府戦略分野に係る国際標準化活動
「テーマ名：サービスロボットのタイプ別安全規格に関する国際標準化」
成果報告書概要

一般社団法人日本ロボット工業会

1. 調査研究の目的

ISO 13482 に示された3つのタイプについて、日本において商品化が進んでいるロボットを対象に平成28年度に安全性に関する JIS (B 8446-1, -2, -3) を制定したので、3つのタイプ(移動型、装着型、搭乗型)固有の部分についての国際標準原案を作成し、各タイプの共通部分と共に、ISO 13482 (ロボティクス—サービスロボットの安全要求事項)の改訂に合わせて、それぞれ ISO TC299 WG2(ロボティクス—サービスロボットの安全性)に提案を行うものである。また、3つのタイプとは異なるタイプの規格化については、国際会議での審議事項に挙げた場合等に検討を行う。

2. 国際標準提案に向けた調査研究の進捗状況

ISO 13482 改訂の際に3つのロボットタイプ固有の部分それぞれを国際規格原案とした新規作業項目提案に向けて、国際会議(2019年6月:ドイツ、10月:米国、2月:韓国)へ出席して、ISO 13482 の改訂について検討し、ロボットタイプ固有の部分は、それぞれ独立した規格(パート)とするのではなく、ISO 13482 の改訂版の中にタイプ毎の独立した章を設けることを決定した。

ISO 13482 改訂版の新規作業項目提案に向けた WD 作成では、日本で既に発行されている JIS B 8446 シリーズの英訳版について、その内容(各タイプに横断的か各タイプ固有か)及び追加や削除が必要な項目等について、タイプ毎の小グループに分かれて検討を進めたが、2020年2月の時点では WD の完成には至らず、従って、新規作業項目提案を行える段階には至らなかった。

生活支援ロボットのうち、腰補助用装着型身体アシストロボットに係る性能項目及び試験方法に関する JIS (B 8456-1) を制定したので、その内容に基づき、ISO TC299 WG4(ロボティクス—サービスロボットの性能)に提案を行った。

2019年6月のオストフェルダン会議では、4月に投票が行われた ISO CD 18646-4 (Part4:Wearable robots) に対する各国からのコメントの処理を行った。2019年10月のレイクフォレスト会議では、CD 投票時のコメントの処理が完了し、2020年1月に DIS 投票が開始された。

今後も引き続き、ISO 規格の内容が日本のサービスロボット産業育成の足枷とならないよう、日本にとって有利となるコメントを ISO 規格に盛り込むために、サービスロボットの安全性に密接に関係する用語や性能等に関する ISO TC299 の国際標準化活動に対しても、積極的に日本提案を行うものである。

以上